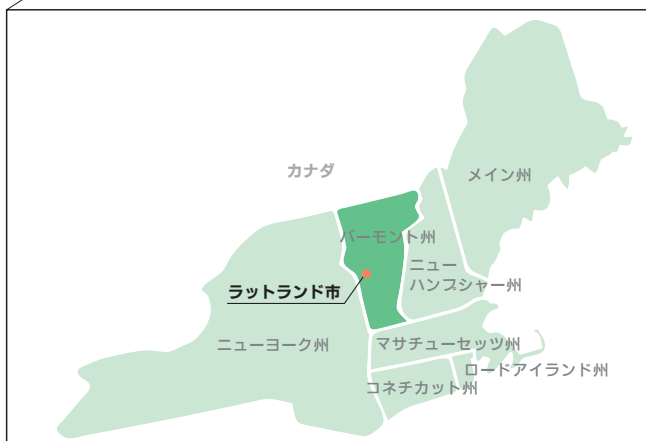
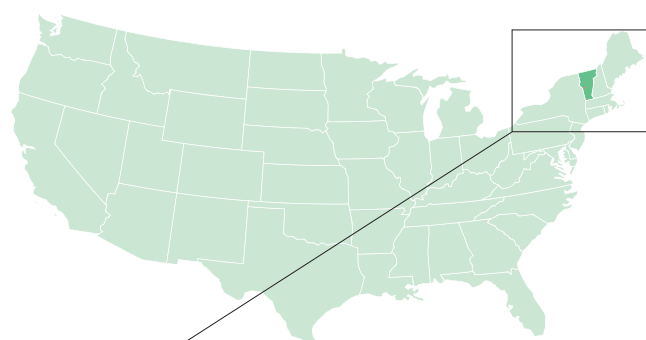




▲チャフィー・アート・センター(旧チャフィー邸。1895年に建てられたビクトリア朝クイーン・アン様式の建築物)



▲ラットランド市街地の様子(横断幕はラットランド市を訪問した花巻市民を歓迎するもの)



▲ラットランド市旗

■ラットランド市の紹介

ラットランド市は二つの山脈の間の広い盆地に位置し、山や湖などの自然に恵まれているため、スキーやハイキング、紅葉鑑賞などのレジャーをメインとした観光業が盛んです。市中心街の歴史地区は、100以上の建造物がアメリカ合衆国国家歴史登録財として、文化遺産保護制度のもと保全されています。

別名「Marble City(マーブルシティー=大理石の都市)」と呼ばれるラットランド市は、19世紀にその端を発する大理石の名産地でした。石鳥谷総合支所旧議場の一部や、道の駅「石鳥谷」にある石碑にもラットランドの大理石が使われています。

■ラットランド市の情報

○人口…約15,000人[2020(令和2)年調べ]

○面積…約20平方キロメートル。新堀地区とほぼ同じ広さです

○時差…日本との時差は13時間(冬時間は14時間)で、日本の方が進んでいます

○位置

・北部がカナダと隣接する米国バーモント州の南西部、ラットランド郡の郡庁所在地

・ニューヨーク市から北へ約380キロメートル、ボストンから北西へ約260キロメートルの位置

・別の自治体であるラットランド町に囲まれている

・日本から空路およそ12時間でミシガン州デトロイト空港へ、乗り継いでバーモント州バーリントン空港へ約1時間。さらに陸路で2時間ほどです(この他の行き方もあり、これは一例です)



◀特産品の「手吹ガラス」と「大理石の製品」

ラットランド市との交流のきっかけは昭和60年にさかのぼります。当時の石鳥谷町長 関鋼次郎氏は、英語講師派遣事業を通じて交流のあった米国インディアナ州リッチモンド市のアーラム大学を訪れました。その際、同大学のジャクソン・ベイリー教授から同教授の教え子が住むバーモント州への訪問を勧められます。勧めに応じてバーモント州を訪れた関町長は、ベイリー教授の教え子がラットランド市長 ジョン・デーリー氏と知り合いであることを知ります。この機会にと、関町長とデーリー市長が懇談。その場で姉妹都市交流が話題になり、デーリー市長から信頼と友好の証として「ラットランド市の鍵」が関町長に贈られました。

帰国後、関町長は国内外の関係者と調整を図り、翌年の昭和61年10月8日、ラットランド市と旧石鳥谷町は正式に姉妹都市提携を結びました。

▲友好の証
「ラットランド市の鍵」



▲友好の証
「ラットランド市の鍵」

ラットランド市 姉妹都市提携35周年



米国バーモント州ラットランド市と旧石鳥谷町が国際姉妹都市提携を結んでから35年。この間、中学生の相互派遣や市民の相互訪問などの交流で友好の絆を深めてきました。35年の節目にあたり、交流の歩みや両市民からのメッセージ、今後予定している交流事業などを紹介します。

交流の始まり